



2021年2月5日

各位

会社名 株式会社ダイフク  
代表者 代表取締役社長 下代 博  
(コード：6383 東証第一部)  
問合せ先 広報部長 大岩 明彦  
電話番号 03-6721-3505

### 新3カ年中期経営計画「Value Transformation 2023」策定 他のお知らせ

当社グループは、2021年度（2022年3月期）から2023年度（2024年3月期）までの3カ年中期経営計画「Value Transformation 2023」を策定しました。

記

#### 1. 新3カ年中期経営計画「Value Transformation 2023」の概要

新中期経営計画では、ニューノーマル、グローバルでの自動化ニーズの拡大と多様化といった当社グループを取り巻く環境の大きな変化を踏まえ、

**DX<sup>2</sup> (DX スクエア) = Digital Transformation × Daifuku Transformation**

を推進し、お客さまや社会の課題解決を通じて、持続可能な社会の実現への貢献と企業価値の向上を目指していきます。

##### (1) 新中期経営計画の期間

現中期経営計画は4カ年で策定いたしましたが、当社を取り巻く社会環境・事業環境の激しい変化に機動的に対応するため、新中期経営計画は3カ年といたしました。

##### (2) 新中期経営計画のコンセプト

###### ① DX<sup>2</sup>による提供価値の変革

DX (Digital Transformation) を推進するとともに、ダイフクグループ自身の変革 (Daifuku Transformation) に取り組み、お客さまをはじめとするステークホルダーに対する提供価値を変革していきます。

###### ② ニューノーマル (新常态) 下における新たな価値創造

前例にとらわれない柔軟で創造性豊かな発想力と既存の枠組みを変革していく実行力により、新たな価値創造が求められる社会においてさらなる飛躍を目指します。

###### ③ 持続可能な社会の実現に向けて

ESG (環境・社会・ガバナンス) やサステナビリティ (持続可能性) などへの取り組み推進の観点から、当社グループでは、中期経営計画とサステナビリティアクションプラン (2021年4月公表予定) を経営戦略の両輪と位置付け、それらの実行を通してSDGs (国連の持続可能な開発目標) の達成に貢献してまいります。

##### (3) 経営目標

売上高5,400億円 (2024年3月期)  
営業利益率10.5% (2024年3月期)  
ROE10%以上 (各年度)

##### (4) 株主還元方針

連結配当性向は、2022年3月期～2024年3月期の3カ年の平均で30%以上を目指します。

※ 「Value Transformation 2023」の詳細は、[別紙資料A] をご参照ください。

## 2. 現4カ年中期経営計画「Value Innovation 2020」のレビュー

2017年度にスタートした「Value Innovation 2020」における業績は、当初計画通りおおむね順調に推移しました。市況の振幅が大きい半導体・液晶業界における一時的な設備投資意欲の減退、および新型コロナウイルス感染症の影響により、2019年5月に上方修正した経営目標（売上高5,000億円、営業利益率11.5%）には届きませんが、2020年度売上高4,700億円、営業利益率9.0%と、当初の経営目標（売上高4,200億円、営業利益率8.0%）は達成の見込みです。

ROEにつきましても、目標である10%以上を全計画期間中確保の見込みです。連結配当性向に関しても、毎年度おおむね30%での配当を継続しました。

重点施策であった、エアポート事業は「第4のコア事業」へ順調に成長しました。また、国内外の生産能力を大幅に増強するなど、積極的な成長投資を継続しました。ESG全般への取り組みも含めて、当社のブランド力の向上に努めて参りました。

## 3. 持続可能な社会の実現に向けて

「Value Transformation 2023」策定と併せて、以下の特定・更新を行い、持続可能な社会の実現に向けて進む姿勢・方針を明確にしました。

- (1) ダイフクグループのマテリアリティ特定について [別紙1]
- (2) 「ダイフク環境ビジョン2050」策定について [別紙2]

以 上

<問い合わせ先>

新3カ年中期経営計画

広報部 大岩 TEL: 03-6721-3505 (ダイヤルイン)

ダイフクグループのマテリアリティ特定、ダイフク環境ビジョン2050

サステナビリティ推進部 横地 TEL: 03-6721-3566 (ダイヤルイン)

ダイフクグループのマテリアリティ(重要課題)特定について

株式会社ダイフクは、このたびサステナビリティ推進にあたり、当社グループにおけるマテリアリティ（重要課題）を特定しました。

事業活動を通じてマテリアリティに取り組むことで SDG s ※の達成に貢献し、持続可能な社会の実現と企業価値向上を目指してまいります。

1. マテリアリティ特定の背景

当社グループを取り巻く事業環境は、気候変動や新型コロナウイルス感染症の拡大などにより大きく変化しています。このような環境下で、当社グループは SDG s が掲げる持続可能な社会の実現に向け長期的な視点で事業を行っております。このたび、これまで取り組んできた「CSR の重要課題」を見直し、重点的に取り組むべき課題を「マテリアリティ」として再特定しました。

2. マテリアリティの概要

サステナビリティ経営の推進に向け、SDG s に沿って「スマート社会への貢献」「製品・サービス品質の維持向上」「経営基盤の強化」「人間尊重」「事業を通じた環境貢献」の 5 つのテーマを設定し、それぞれのテーマに関連する 18 のマテリアリティを特定しました。

3. サステナビリティアクションプラン

特定したマテリアリティに対する 3 カ年の行動計画「サステナビリティアクションプラン」を 2021 年 4 月に公表する予定です。

※SDGs : 2015 年 9 月の国連サミットで採択された、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。17 のゴール・169 のターゲットから構成される。

マテリアリティの詳細は、次頁をご参照ください。

## 持続可能な社会の実現に向けてダイフクが取り組む“5つのテーマ”と“18のマテリアリティ”

テーマ	関連するSDGs	マテリアリティ
スマート社会への貢献	 	<ul style="list-style-type: none"> <li>革新的技術開発、発明促進</li> <li>新規領域の創出</li> <li>スマート・ロジスティクスによるお客様ニーズへの対応</li> </ul>
製品・サービス品質の維持向上	 	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル化による生産の最適地化</li> <li>製品品質、製品安全の追求</li> </ul>
経営基盤の強化	    	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガバナンスの強化</li> <li>コンプライアンスの徹底</li> <li>リスクマネジメント</li> <li>サプライチェーンでの責任ある調達</li> <li>情報セキュリティの強化</li> <li>透明性の高い情報開示と戦略的なコミュニケーションの実践</li> </ul>
人間尊重	    	<ul style="list-style-type: none"> <li>労働安全衛生の徹底</li> <li>ダイバーシティ&amp;インクルージョン</li> <li>働きがいのある職場環境の整備</li> <li>人財の育成</li> <li>人権配慮</li> </ul>
事業を通じた環境貢献	   	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業運営における環境配慮</li> <li>環境配慮製品・サービスの拡充</li> </ul>

以上

「ダイフク環境ビジョン2050」策定について

株式会社ダイフクは、このたび持続可能な社会の実現に向けて2050年を展望した新たな環境ビジョン「ダイフク環境ビジョン2050（以下「本ビジョン」）」を策定しました。

本ビジョンは、従来の「ダイフク環境ビジョン2020」を全面的に見直したものです。「ダイフク環境ビジョン2020」は、2011年4月に当社として初めて策定した長期環境目標で、2020年度を最終年度として「事業運営における環境配慮活動の推進」「環境配慮製品・サービスの拡充」「環境経営基盤の強化」の3つのテーマに取り組んでまいりました。

本ビジョンでは、2050年に「マテリアルハンドリングシステムが環境負荷ゼロで動く世界を目指す」を掲げ、2030年までの重点領域「気候変動・エネルギー」「資源循環」と、それぞれの目標を設定しています。取り組み期間は2021年から2030年とし、代表取締役社長を委員長とするサステナビリティ委員会を中心にグループ全体で推進してまいります。

当社はマテリアルハンドリングシステムの総合メーカーとして、本ビジョン達成を通じて持続可能な社会の実現に貢献するとともに、今後もお客さまや株主・投資家をはじめとするステークホルダーとの信頼関係を強固にし、さらなる持続的成長と企業価値向上を目指します。

「ダイフク環境ビジョン2050」の詳細は、次頁をご参照ください。

# ダイフク環境ビジョン 2050

**DAIFUKU**  
Always an Edge Ahead

ダイフク環境ビジョン 2050

## One-Daifuku Zero

マテリアルハンドリングシステムが環境負荷ゼロで動く世界を目指す

### 気候変動・エネルギー

脱炭素社会の実現に向けて、最適・最良の製品・サービスを通じて、お客さまに環境貢献します。

主要サプライヤーを含む生産段階での使用エネルギーを再生可能エネルギー100%にします。

### 資源循環

循環型社会の実現に向けて、最適・最良の製品・サービスを通じて、お客さまに環境貢献します。

製品の長寿命化に加え、提供する製品および生産拠点から排出される埋立廃棄物をゼロにします。

2050

### 2030年の重点領域

#### 気候変動・エネルギー 対策の加速

製品稼働におけるエネルギー削減やサプライヤーとの連携により、バリューチェーンでのCO<sub>2</sub>削減に取り組みます。  
グループ全体での省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの導入により、パリ協定に準じたCO<sub>2</sub>削減に取り組みます。

#### 資源循環の促進に向けた 基盤整備

ライフサイクルを通じた資源循環を進めるため、製品のリサイクル可能率を高めます。  
すべての生産拠点において資源循環の仕組みを構築します。

2030

現在

### 2030年の目標

重点領域	2030年の目標
気候変動・エネルギー	環境貢献物件 <sup>※1</sup> 売上高比率70%以上
	CO <sub>2</sub> 削減貢献量 <sup>※2</sup> 累計30万トン以上
	自社CO <sub>2</sub> 排出総量削減25%以上(2018年度比)
	サプライチェーンCO <sub>2</sub> 削減プログラム参加企業率50%以上
資源循環	新製品のリサイクル可能率90%以上
	グローバル生産拠点での資源循環 <sup>※3</sup>

※1 当社エコプロダクツ製品などを通じて、お客さまに納入したシステムで環境面から貢献したものを。

※2 お客さまに納入した製品・サービスから排出されるCO<sub>2</sub>排出量を、基準年度である2011年時点の製品・サービスによるCO<sub>2</sub>排出量から差し引いたものを。

※3 生産拠点における資源循環の実態を把握した上で目標を設定し、2022年4月に開示します。